

令和2年度第12回アーバンデザインセミナー実績報告書

1. 開催日時

令和3年2月17日（水） 18時00分～19時30分

参加人数: UDCBK での視聴: 7名、オンライン: 23名=計30名

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

2. テーマ

「『都市と交通プロジェクト』ワークショップ成果報告会」

- UDCBKでは「都市と交通プロジェクト」を令和元年度からスタートし、昨年7月には「20年後の南草津の『まちと交通』の未来を考えよう」と題した4回のセミナーを行った。そして、セミナーを受講した公募の市民メンバーを対象に8月から10月にかけて3回のワークショップを実施し、専門家やプロジェクトメンバーとともにシナリオ・プランニングの手法を用いて、20年後の南草津エリアのイメージ像を構想した。
- 今回のセミナーでは、そのワークショップでの成果を市民と共有し、20年後の南草津を考えていく。

3. 話題提供者（ファシリテーター）

- 武田 史朗 氏
立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科 教授、UDCBK 副センター長
- 塩見 康博 氏
立命館大学 理工学部環境都市工学科 准教授
- 阿部 俊彦 氏
立命館大学 理工学部建築都市デザイン学科 准教授
- 金 度源 氏
立命館大学 理工学部環境都市工学科 准教授

4. 話題の概要

(1) 武田氏によるワークショップについての解説

- 従来の都市計画は、一つの未来を決めて、それに向かって物事を進めていくという手法がとられることが多かったが、今回のワークショップで用いたシナリオスタディでは、2040年の南草津駅周辺の将来像について複数のシナリオを描くことにした。

- 特に、南草津駅周辺で課題となっている交通と都市空間の在り方について議論を進め、20年後の望ましい都市空間の中で、交通がどのようになっているべきかを考えた。
- そして、複数の将来像に向けて課題解決のためのアイデアを出し合った。その中で、グループの各シナリオに共通する課題なども見出すことができる。
- さらに、シナリオをもとにしたイメージ図について市民が考えることが、まちの将来に向けた課題などを議論するきっかけになる。
- 今回のワークショップは10年後の南草津エリアを考える「南草津エリアまちづくり推進ビジョン（みなくさビジョン）」の策定とリンクさせるかたちで進めた。



(2) グループ1（塩見班）の説明

- 「域内の Face to Face の交流が促進されるまち」を将来像とした。
- 将来に大きな影響を及ぼす要素として二つのことを考えた。一つは、「バーチャル社会の進展」である。コロナ禍の影響もあり、今後、リモートやオンラインといった方向性はどんどん進んでいくと考えられる。そして、特定の場所にとらわれずに、色々な活動ができるようになる。
- 二つ目は、「移動手段の変化」である。今後、自動運転が普及すると考えられるが、その手段としては個人所有（オーナーカー）と公共交通寄り（サービスカー）の二つが想定される。
- 以上を考慮し、一つの軸としては、現実空間における活動の進化か、または仮想空間における活動のシフトかという方向を据えた。また、もう一つの軸として、サービスカーの普及により脱クルマ化が進む社会か、あるいは個人所有型モビリティの利便性が向上する社会かという方向を設定し、できあがった四つの象限について考えた。

- 第1象限は、仮想空間／脱クルマ化による「多様な個人の利便性が追求されるまち」である。この将来像では2拠点居住やリモートワークが一般化し、公共交通も拡充されている。
- 第2象限は、現実空間／脱クルマ化による「域内の Face to Face の交流が促進されるまち」である。ここにおいては、歩行者空間やオープンスペースの拡充、子育て支援施設や公園の増加といった現実空間の進化も見られる。
- 第3象限は、現実空間／個人所有型による「現状維持社会」であり、現在の社会が少しずつ改善された将来像である。
- 第4象限は、仮想空間／個人所有型による「自動運転が変える未来社会」である。この社会では、土地に縛られず、個人の利便性が追求される。
- この四つのなかで、公共交通の拡充と現実空間の充実を達成する「域内の Face to Face の交流が促進されるまち」を望ましい将来像として設定した。
- このシナリオに基づいて描かれたイメージ図では、駅前のロータリーに公園をつくり人々が集える地域の玄関口とした。さらに、琵琶湖と山側を結ぶ交通手段として新交通システムである LRT を想定し、域内の移動もサポートするようにした。
- また、域内には、徒歩で集えるいくつかの活動の拠点を設ける。そして、拠点同士をゆるくつなぐ自動車を排除した「みどりの回廊」という空間を市民の手で育む。また、拠点間はスローなモビリティによる移動を想定する。さらに、河川の水辺空間に遊歩道を設置し、人々が憩える場所をつくる。
- 2040年の生活の一例としては、LRTの新しい南草津駅の利用や駅前広場でのバーチャルイベントや地産マーケット、スローモビリティの活用などがある。
- (ワークショップ参加者の感想) グループとして考えたのは、市民が住んでいて満足感や幸せを感じられることであり、その中で「みどりの回廊」というアイデアが出た。ガーデンシティ、緑があるまちとして暮らしやすい空間がある未来が実現できたら良いという思いからグループのシナリオがまとまったと思う。また、将来的には緑の空間の中に、生き物がいる空間も活かしていければ良いと思っている。今回は塩見先生、立命館大学の学生の皆さんのおかげで良い経験ができた。



(3) グループ2 (阿部班) の説明

- 「新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市」を将来像とした。
- 交通の課題のほかに、コミュニティの変化ということも考えて議論を行った。南草津では新しい人口が増えている一方、昔から住んでいる住民のコミュニティもあり、特にそのつながりが今後どのようになっていくのかということを考えて。
- 「シェア社会」ということが一つの要素になると想定した。学生など若い世代は、所有よりもシェアという方向にシフトしつつある。そういったトレンドの中、所有を重視するより高齢の世代との価値観の違いが生まれてきているのではないかとと思われる。
- また、新旧の世代が交わる中、地域の「コミュニティ」を重視するか否かという観点も重要になってくると考えられる。
- 「シェア」という軸から、「シェア社会」又は「個人社会」(所有)という方向性を導き、「コミュニティ」というもう一つの軸からは、「ローカル化」(地域に目を向ける)あるいは「グローバル化」(都市化)という方向性を設定した。
- グループでは、「シェア社会」／「ローカル化」の「新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市」、「個人社会」／「ローカル化」の「昔ながらのコミュニティが支える田園都市」、「個人社会」／「グローバル化」の「まちの消滅に向かう郊外都市」、「シェア社会」／「グローバル化」の「グローバル化の進展により新規住民の集まる都市」の四つのうち、「新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市」を望ましい将来像として設定した。
- この将来像においては、昔からのコミュニティをベースに新しい住民も受け入れて良い関係を築いたり、コワーキングベースでの地域ビジネスや ICT によるコミュニティ活動の活発化が起こったりしていることを思い描いている。

- 最悪のシナリオとしては「まちの消滅に向かう郊外都市」があり、ここに至らないようにしながら、他の3つのシナリオの中では「新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市」を最善のものと考えたが、他の二つのシナリオも良い面がある。
- 議論の途中において考えた「昔ながらのコミュニティが支える田園都市」は少し前の時代のニュータウンの在り方で、個人所有の住宅や顔の見える関係を重視したものだが、これは一つの方向性としてあっても良いのではないかという意見もあった。
- また、インターネット化が進んだ「グローバル化の進展により新規住民の集まる都市」では、そのまちに住んでいる意味や人間関係が希薄になっていくと考えた。一方で若い世代は、オンラインでつながっていることに安心を見出すという見方もあった。
- 望ましいシナリオに基づいて考えたイメージ図として、駅周辺には、まず自動車が入ってこないようになっている。さらに、駅からモノレールが接続しており、公共交通で東西を行き来することができ、病院などの施設にも行くことができる。また、駅周辺にデッキなどを配し、立体的に移動できる空間をつくる。
- 駅前には「シェア」できる広場を設け、東側では「知」（情報など）、西側では「もの」（日用品など）を人々がシェアする。さらに、まちのあちこちにはデジタルサイネージが設置されており、市民に必要な情報が発信されている。
- フェリエは市民や企業、大学にとってよりオープンな場所となり、今まで以上に駅前での活動が活発になる。加えて、駅周辺の建物の屋上も自由にシェアできる場所として活用していく。
- 2040年の生活の一例としては、例えばキャンプに行きたくなったらシェア市場でものを借り、東西どちらにも公共交通で移動可能になる。また、駅前で学んだり、屋上でバーベキューしたりすることもできる。
- （ワークショップ参加者の感想）Zoomの操作や初対面の人との作業に不安があったが、ワークショップに参加して良かった。参加することで、未来のまちに対する視点や様々な人の考え方に接する機会を得られた。さらにシナリオを考えることで、今のまちの課題に気付くこともできた。皆の意見が専門家によって整理され、具体的な未来のかたちが変わっていく過程を経験できたことはとても有意義だった。また、パース図を見たときは思わず感嘆した。それは、皆の意見が一目で分かるようになっていたからである。このように見える形になっていれば、具体的な改善や工夫ができるようになると思われる。可能であれば、このパース図を3D化して、実際の空間の中で20年後の未来のまちを歩いてみたい。最後に阿部先生、ワークショップの他のメンバー、UDCBKのスタッフにも感謝申し上げたい。

3) 実施成果 新旧の多様なコミュニティが融合する共生都市
 ～ローカルコミュニティを基礎としたシェア社会に対応したスマートシティ～ グループ②

提案の概要
 都市は人口増加、資源を必要とする一方で、環境負荷、都市計画の課題を抱えている。また、スマートシティ化も、都市計画の課題を抱えている。都市計画の課題を抱えている。都市計画の課題を抱えている。

提案のポイント
 ① 駅周辺が、シェア社会
 ② スマートシティ化
 ③ コミュニティを基盤としたシェア社会
 ④ 多様なオープン化(大学、企業、市民)
 ⑤ 駅から伸びるデッキ空間の活用

2040年の南草津の未来予想図
 ① 駅周辺が、シェア社会
 ② スマートシティ化
 ③ コミュニティを基盤としたシェア社会
 ④ 多様なオープン化(大学、企業、市民)
 ⑤ 駅から伸びるデッキ空間の活用

私たちが考えた南草津の未来のシナリオ
 シナリオを考えるにあたってのドライバー
 都市計画の課題
 ① 人口増加
 ② 資源不足
 ③ 環境負荷
 ④ 都市計画の課題

シナリオの軸
 ① 都市化の方向性
 ② 交通手段の方向性

シナリオの軸
 ① 都市化の方向性
 ② 交通手段の方向性

都市と交通プロジェクト 2040年の南草津エリアのシナリオを考えるワークショップ

(4) グループ3 (金班) の説明

- 「南草津駅を拠点とした山と湖の交流」を将来像とした。
- 特に、自動車に頼らない、交通弱者にも配慮した社会という点と山や湖などの自然環境に親しむという点を考慮した。
- シナリオを考えるにあたってのドライビングフォースとしては、自動車という軸について、「脱自家用車化」もしくは「車所有化」という方向性を考え、もう一つの軸である都市化については、「駅周辺集約都市化」もしくは「郊外分散型都市化」という方向性を考慮した。
- 第1象限の「駅周辺集約都市化」／「脱自家用車化」では、「さらば自動車、ようこそオープンスペース」というシナリオを描いた。ここでは、LRT、BRTなどの交通システムが導入され、交通手段のシェアリングも行われている。また、駅前の再開発によって高度集積化が図られ、オープンスペースが確保された心地よい密集が達成されている。
- 第2象限の「駅周辺集約都市化」／「車所有化」の「駅周辺の巨大化と自家用車利用の増加」は、最も望ましくないシナリオであるが、この未来においては現在の駅周辺の渋滞などの課題は未解決のまま残ってしまう。
- 第3象限の「郊外分散型都市化」／「車所有化」は、「星の見える緑豊かなまち」であり、働く場所や住まいの場所が多様化し、自然の中での活動がより増えていくことが想定される。
- 第4象限の「郊外分散型都市化」／「脱自家用車化」から考えた「駅周辺と郊外がバランスのとれた居心地良いまち」は最も望ましいシナリオとして想定した。ここにおいては、歩いて楽しいまち、東西の分断を解消する公共交通システム、医・食・農・観光の連携などが実現され、人が集うまちになっている。

- 琵琶湖側と立命館大学などがある山側は LRT で結ばれている。また、南草津駅は東西交流の拠点として LRT・BRT と連結され、駅前は広場になっている。
- ビルや住宅の屋上はグリーンインフラとして活用され、個人が耕作できるレンタル農地にもなっている。駅前広場も緑豊かに整備され、山と琵琶湖の産物が売買できるマーケットが開かれる。
- 駅前の商業店舗と連携して駅前から離れた送迎空間を創出し、渋滞を減らす。また、BRT を整備し、店舗の駐車場を立体化してその 1 階をバスターミナル拠点とする。駅とバスターミナルは回廊やウッドデッキでつながれ、にぎわいのある歩行空間が生み出されている。
- 2040 年における立命館大学の学生生活の一例としては、駅前のサテライトキャンパスで学んだあと、駅前の水産市場で魚を買い、屋上農園で採れた野菜と一緒に昼食にする。駅前の公園を散歩しながら友達や地域住民との会話を楽しみ、LRT で下宿先に帰宅する日常風景がある。
- (ワークショップ参加者の感想) 毎日、駅から徒歩 10 分ほどの勤務地に通っているが、駅の東口と西口が分断されていると感じている。また、緑が少ないところもあり、それらの課題を感じながらワークショップに参加した。最初は、オンラインのワークショップに戸惑うこともあったが、金先生や学生の皆さん、他の班員の方たちに助けをもらいながら進めていくことができた。LRT や BRT で移動することができるようになれば高齢者にも若い人にもやさしいまちになるのではないかと思う。そして、山と湖を結ぶことができれば、落ち着いた環境の中で発展していけるのではないかと考えた。また、自動車を利用することが減って、歩いて暮らせるまちになっていけば、どの世代にもやさしいまちになると感じる。回を追うごとに良いアイデアが出てきた。パース図が出てきたことで、こうすればより良くなるということが見つかる。他のグループの良いところと合わせて、仮想空間を UDCBK で鑑賞できるような会が持てたら良いと思う。今後もこういう機会があれば是非参加してみたい。



(5) パース図を描かれた荘田氏より

- ワークショップにオブザーバーとして参加し、回を追うごとに頭の中でイメージがはっきりしてきた。
- 描くに当たっては四つほど気を付けたことがあった。一つ目は、新交通（LRT・BRT）の動きがどのように生活に馴染んでいくかを思い描いたことである。二つ目は、ゆとりのある歩行空間の在り方で、道の拡幅、立体化、ループしてゆっくり歩くとといったように3案とも異なるように描いた。三つ目は、鳥観図のような構成の中、人や人が集まる空間を描くことが難しかったので、ゆとりある空間をどのように配置すればこのまちに合うのかということを考え、空間を連続させることを念頭に置いた。四つ目に、緑を立体的、平面的に工夫しながら配置した。

(6) 武田氏より講評

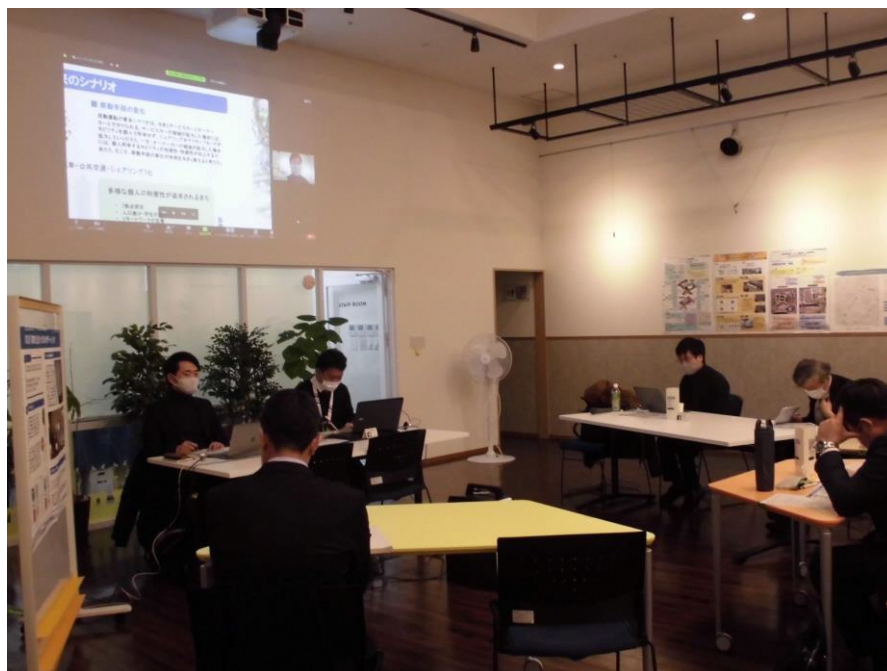
- こういう未来があって、そのためにこういうことが必要だという前提で考えると、普段は要望や不満だと捉えられがちなこと、一つのアイデアとして見えてくるように感じる。
- 一度未来のことを描いたからこれで終わりということではなく、また、テーマを変えるなどして何回もワークショップを実践すると、より目線の合った未来が見えてくると思う。

(7) 及川センター長より講評

- 今回の発表では、シェアするという観点の重要性を認識した。また、ハイテクに頼らない旧来のコミュニティや Face to Face などのレトロな部分も大切であると感じた。さらに、いずれのグループでもオープンスペースが必要とされていることもよく分

かった。最後に、親自然性を織り込むということが将来の空間において重要であるということも感じた。

- いずれのグループでも将来像に共通性が見られ、そこに向かって進んでいくことが共有されているということが今回改めて認識されて大変に良かった。



5. 質疑応答

(1) Q: シナリオは夢を描いたところもあるが、実現するためには、例えば5年以内にこのようなことをやっておいた方が良いのではないかと思うところはあるか。

A: (グループ1: 塩見氏より) グリーン、スローということで意見がまとまっていったが、その意味では、公共交通を志向したまちづくりということが何よりも重要になると思う。バスの利便性向上、道路の拡幅、歩道への植栽など、どこかから一歩を踏み出せるような事業を始めていければと考える。

(グループ1: ワークショップ参加者より) 卓上の議論だけで終わるのは非常にもったいない。例えば、車に頼らないまちづくりということで、UDCBKでも講演があった、まちなかのベンチ設置など小さなことから実現していったらと思う。

(グループ2: 阿部氏より) このまま放っておくと、Face to Faceのコミュニケーションが薄れていくような社会になっていってしまうと思う。今のコミュニティを残しつつ、新しい人たちをどのように融合させていくかということについて、何か手立てを打っていかなくてはいけない。今のコミュニティをいかに維持するかという点に加えて、地域のコミュニティにあまり参加していない学生がまちを居場所として考え、生活や研究をするように誘導していかなければならないと思う。

(グループ 2: ワークショップ参加者より) 学生にとって楽しい、役立つということがないと活動は続いていかないと思う。地域の人と一緒に考えて、win-win となることで、楽しさと希望のある方向に向かっていけるようなかたちになれば良いと思う。ワークショップは良い経験になったが、最初にまちのことというよりも、もう少し小さなテーマで皆がワークショップできる場があれば良いのではないかと考える。

(グループ 3: 金氏より) 望ましくない未来にある課題は、駅周辺の渋滞だった。南草津の利便性を追求するだけでは、その課題は解消できないと思う。その意味で、山や湖といった自然の資源に着目することが大切ではないか。また、今回のワークショップで出てきた案を市民と幅広く共有していくことが大事だと思う。今後、そういう場を積極的につくっていければ良いと考える。

(グループ 3: ワークショップ参加者より) まずは、駅前にオープンスペースをつくってほしい。学生も高齢者も「心地よい密集」ができる緑のある場所を確保する必要がある。その上で、自動車の乗り入れを禁止し、公共交通や自転車の利用が進めば良いと思う。立命館大学には、駅前にサテライトキャンパスを設置してもらい、学生と市民が利用できる空間をつくってもらいたいと思う。

(2) Q: (グループ 2 に対して) 情報を得るのは個人の端末が主流になっていると思うが、あえて、まちなかのデジタルサイネージに情報を発信するとした意図は何か。

A: (グループ 2: 阿部氏より) ヨーロッパの都市などでは、その場所において発信したい情報を、場所を絞って出すということがある。その場所にいる市民や観光客などに季節や時間ごとに異なる情報を届けるということは重要であると思う。

(グループ 2: ワークショップ参加者より) 地震の時、公の情報はなかなか届かないように感じた。そのような時、駅の周辺にいる人に対して情報が発信できれば良いと思う。また、情報の検索では自分が見たいものだけを見るようになるが、サイネージで情報を発信すると市の広報のように知らなかったことやこれまで興味のなかったことも目に入ってくるのではないかと考える。

6. まとめ

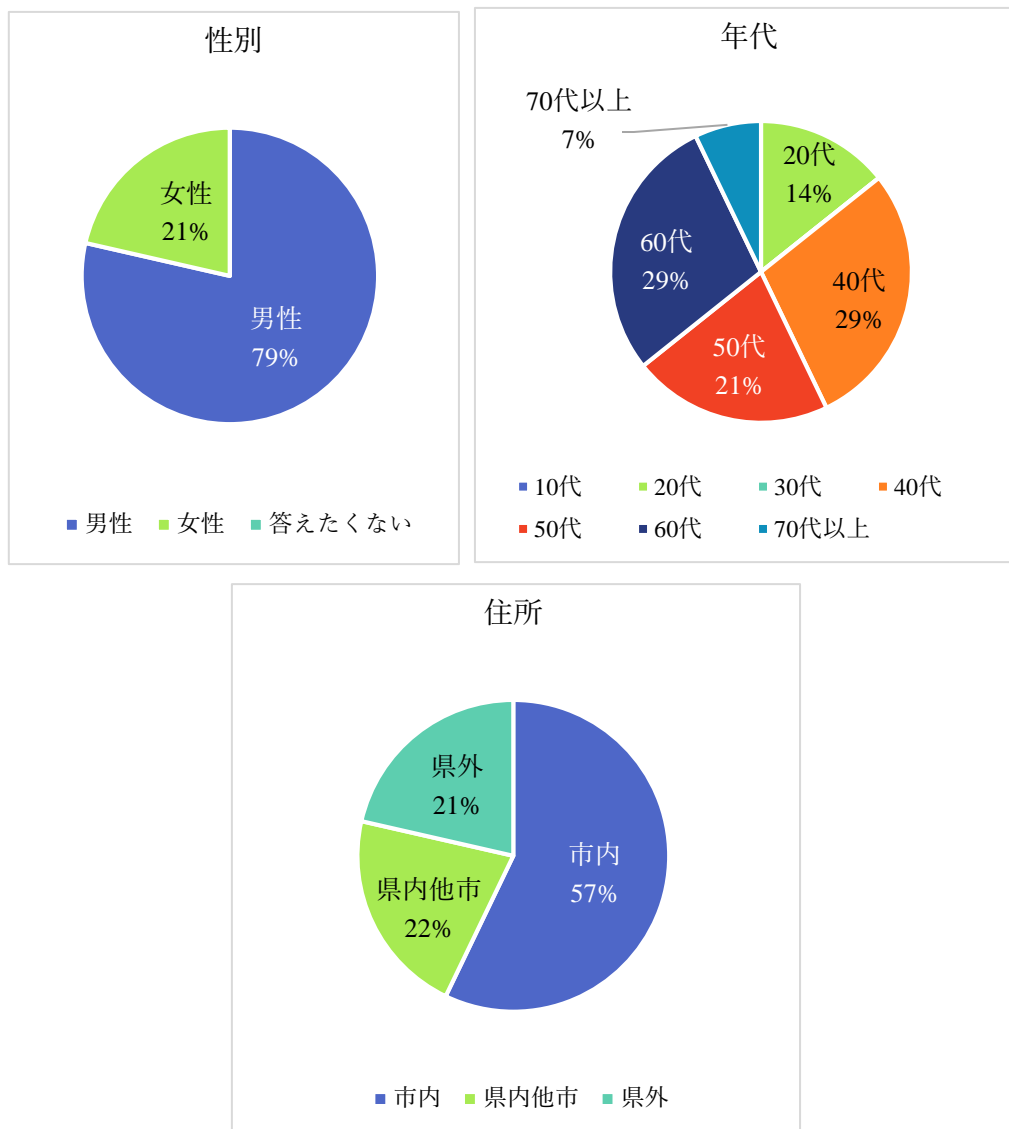
- 3つのグループとも、ワークショップの議論から「交流」、「ローカル」、「脱自動車」といった点で共通した方向を志向していることが分かった。
- 具体的な将来のイメージ像をパース図で共有することにより、目に見えるかたちでこれからの可能性や取り組むべき課題を認識することが可能になる。
- 今回のワークショップでは各グループが考えた複数のシナリオと 2040 年の未来予想図 (パース図)、想定される 2040 年の生活の一例 (日記形式) が具体的な成果として生み出されてきたが、今後、成果を共有する機会 (パネル展示など) を設けるとも

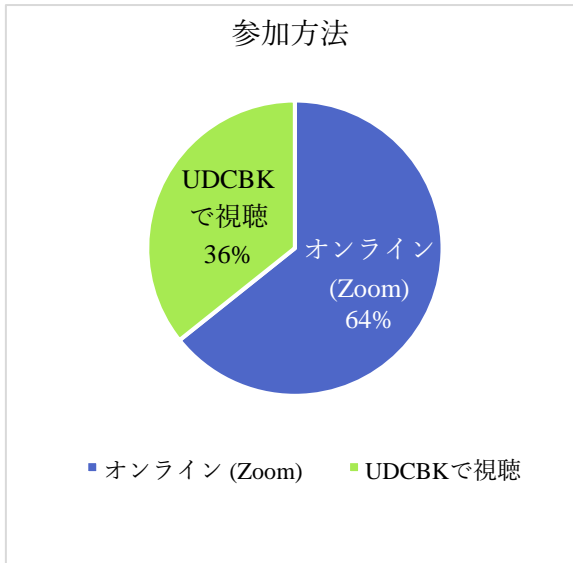
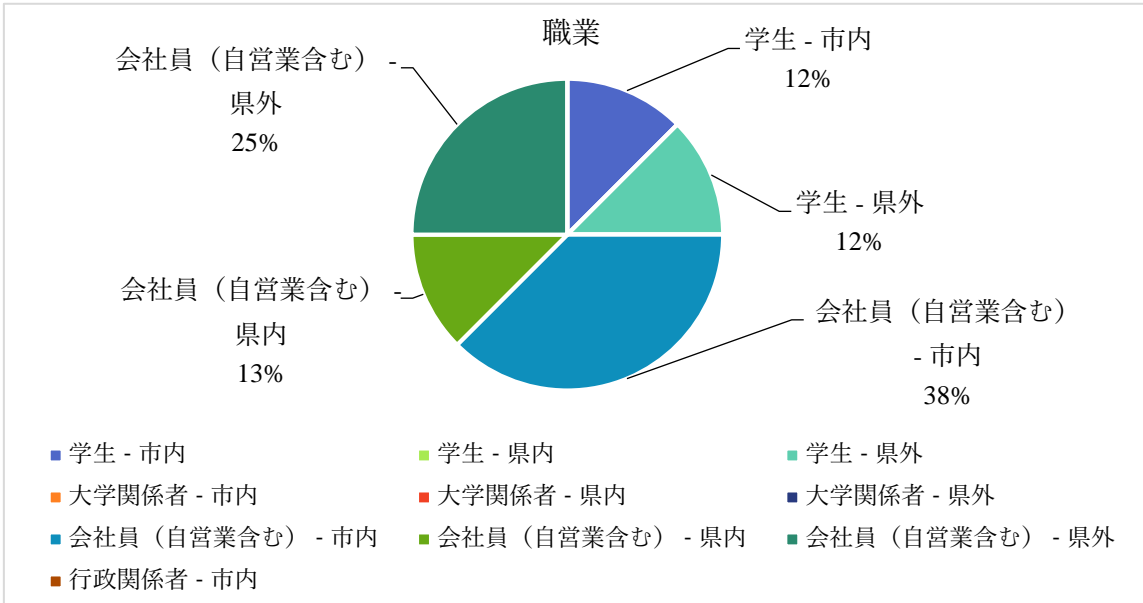
に、小さな範囲でもできるところ（例えばUDCBKのスクール等で報告された、まちなかでのベンチ設置など）から、取組みを始めていくことが重要となる。

7. アンケートまとめ

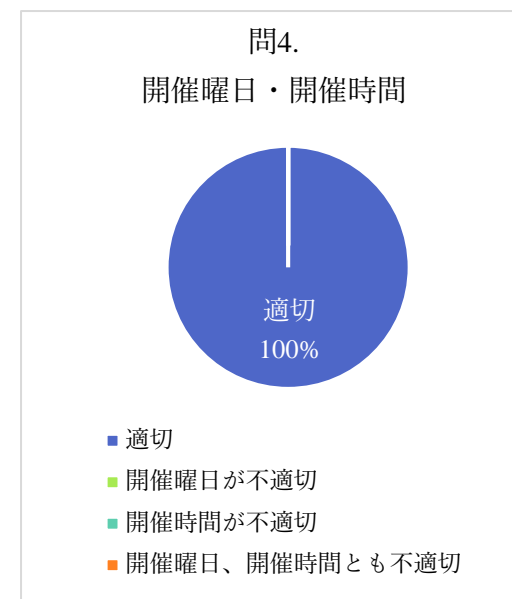
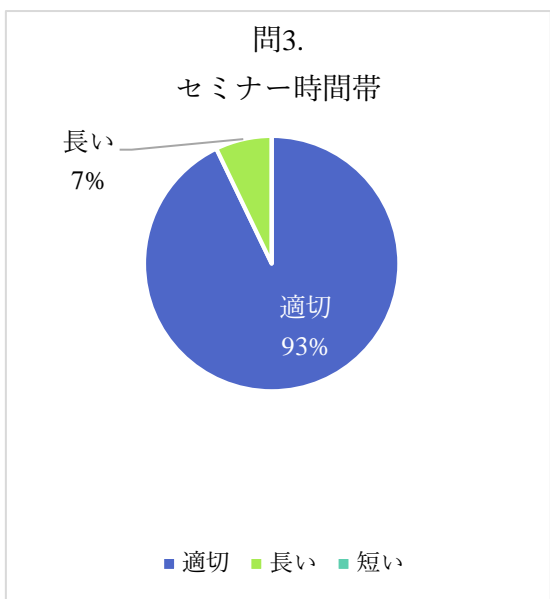
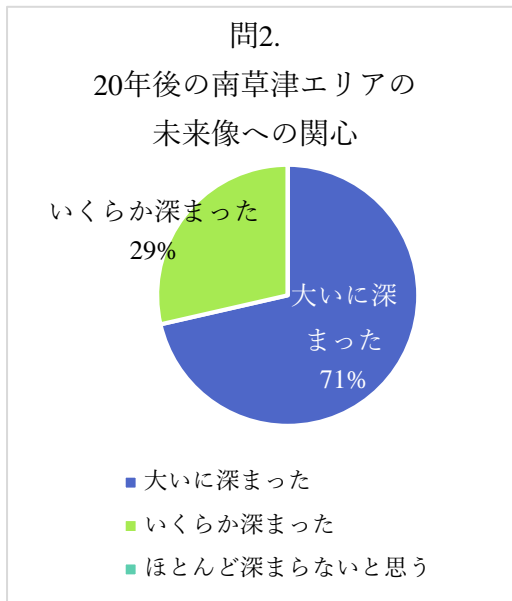
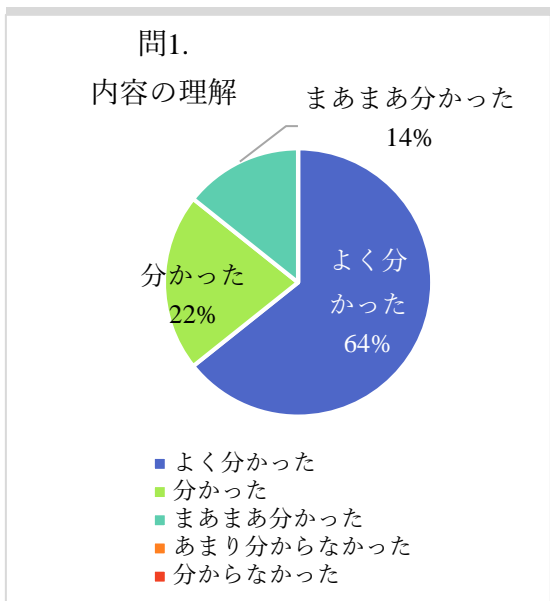
(1) 参加者属性

参加者30名のうち、アンケートに回答いただいた方は14名、回答率は47%だった。





(2) 内容について



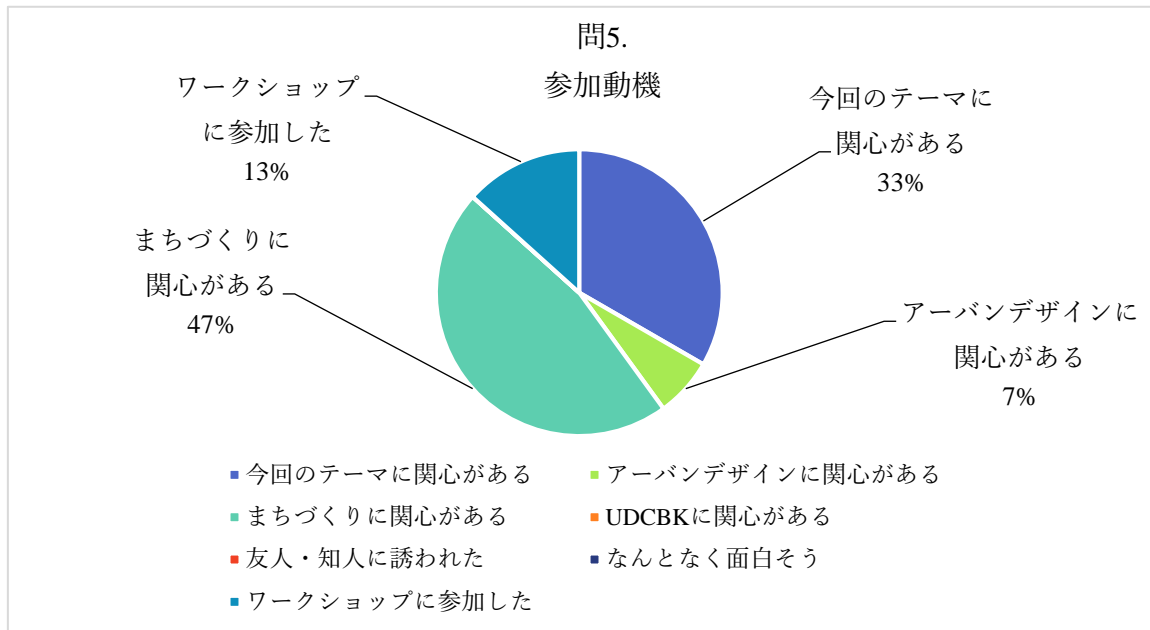
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

回答なし



【自由記入欄回答】

問6. それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- 今回のワークショップの報告会は、改めて各グループの未来図が良く理解でき、有意義なものだった。様々なことが印象に残った。(60代女性)
- 少子高齢化社会を迎え、これからは、いかに住みやすく住んで良かったと思ってもらえる都市間競争の時代。今回のワークショップはこの面でも大いに役立てていただきたい。(60代男性)
- ワークショップには参加していませんが グループ毎の熱心な取組に感動しました。幅広い年齢層と視点での議論がよくわかりました。
 - > 駅に自動車が一定以上近づかないこと
 - > 自動車の渋滞が発生しないようにしたい
 - > 300m ごとのベンチ設置
 - > ビルの屋上の活用等
 - > 未来の姿以外に5年後とか近い将来についての視点があること等 (60代男性)
- zoom を用いて初めて参加させていただきました。3案とも拝聴させて頂いて、いずれも現状からの交通転換が基本にあり、30年後の未来にとっても興味がわきました。(40代男性)
- グループ①の遊歩道：健康というテーマに興味を持っているから (20代男性)
- ワークショップで議論された未来をイラストにされたことでイメージしやすかったです。(40代男性)
- グループ②の発表において、大きく情報をシェアすることで、エコーチェンバーやフ

ilterバブルといった現代の情報収集における問題点を解消しつつ地域のつながりを考えさせていくという考えがとても興味深く感じた。(20代男性)

- 20年先を考えるとということで自由な発想で考えることが出来、非常に良かったと思う。(40代男性)
- 各班の練られたシナリオを、うまくパース図にまとめられ、立命館大学の先生方がポイントを押さえて説明されたので、分かりやすく良かったです。私が所属した3班も金先生が非常にレベルを引き上げてご説明いただき嬉しかったです。
- 1~3班のシナリオを合体させ、その混濁を精査していくと実現可能な道筋が見えてくると考えます。南草津駅を高架にして、1階で東西が自由に行き来できるようにするのが最初のポイントのような気がします。それと笠井様がおっしゃっていたVRをぜひ作成していただきたいです。費用もかかるでしょうが、UDCBKで体験できるとなると多くの市民の方が訪問され街づくりに関心をもたれるようになると思います。(60代男性)
- 現在問題となっている事から将来像を考えた時、各グループ共通項が多々あり、1つの案にまとまる気がした。先生方の説明がわかりやすく理解しやすかった。また、配布資料もイラスト化されておりイメージが膨らんだ。(50代男性)
- 住みやすい都市ランキングで上位の理由と20年後の自分の暮らしに求めるものが違ってきているのが興味深い。「星、自然、農業」といったキーワード「駅周辺での歩行者中心のイベント、マルシェ、リアルな触れ合い、賑わい、知り合い」ちょうどよい具合のコミュニティがネット社会が進んでも求められるということが、コロナ禍だからこそ普通に世の中が進むその速さよりも早く知ることが出来た気がします。(50代女性)

【自由記入欄回答】

問7. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ありがとうございます。これからもオンラインでの行事をつづけていただきたいをお願いします。(60代男性)
- 夢物語で終わらないように、大学を中心に作って頂いたパース図を目指し、都市基盤整備できるように、もっと行政を巻き込む仕組み作りが、必要と感じました。南草津駅を起点としたLRT整備計画等のハード対策は、急務かと思いますので、皆様お疲れ様でした。(40代男性)
- 未来について考える機会になった。これからの活動に活かしたいと思う。(20代男性)
- 大変すばらしい未来予想図に感銘を受けました。これが実現されるように、行政や産業界、各地域に訴えてほしいと感じました。(40代男性)
- これまで、こういったイベントに参加したことがなかったが、議論を重ね考えをシェ

アすることはとても勉強になると考えた。これからも積極的に活用していきたい。

(20代男性)

- 昨夏からのシナリオ作成のワークショップ、感想でも述べましたがとても良かったです。初めてのオンラインで多々不安がありましたが、UDCBKのスタッフの皆さんに助けていただき意外とうまく出来ました。ありがとうございました。3つのパース図をぜひ市の広報誌にご掲載ください。3回に分け、ポイントを絞った解説を添えられると多くの市民の方が関心をもってお読みになると思います。自分たちの地域でもシナリオ作りをしたいとおっしゃる方も現れるのではないのでしょうか。市民の方により開かれた街づくりにつながると 생각합니다。今年度も大変お世話になりありがとうございました。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。(60代男性)
- これで終わらずに、出来る事から少しずつ実行に移す事ができると良いと思います。(50代男性)
- 先生のご指導の下、学生の方を含めいろいろな方とアイデアを出して南草津の未来を考えるとこの機会は大変貴重でした。リアルでお会いできる機会が少なかったのは仕方なく、これからも続けてこの学びに加わっていくことが出来ることを期待しています。ありがとうございました。(50代女性)